

- DNA分析による系統学的種概念では、個体を単位とした系統樹を書きそれ上のまとまりを種とする
  - ↳ 系統樹の分け方がはっきりせず、どのレベルのまとまりまでか種なのか明確でない、  
⇒ 種が際限なく細分化してしまう。
- 核DNAと異なり、ミトコンドリアDNAは母系遺伝
  - ↳ 用いたDNAによって系統樹が異なる場合がある。
- 完全に種分化するまでは、複雑な個体群の網目状の進化プロセスがある
  - ↳ どこに種としての境界線を引くのが困難。
- 種というものが理念上のもので、自然界に実態として存在しないという考え方もある。
- おそらく全てに適用できる概念は存在しない。
  - ⇒ 種とは、生物個体の集まりを、様々な頻度での遺伝子交流を介して、連結したり分離したりしている動的なものとして認識した上で、歴史的過程を踏まえての現在の生物分布の状況を理解する必要がある。